

上厚真小学校のプール完成



真新しいプールサイドで記念撮影する6年生たち

老朽化に伴って建設していた上厚真小学校のプールが完成し、児童たちに7月3日、お披露目されました。

プールは鉄骨造で、屋根はシート張り。25メートルで、5コースを備えています。男女更衣室のほか、温水シャワーも完備しました。

落成式には、宮坂町長や遠藤教育長ら来賓と、6年生16人も出席。町長、教育長と児童代表2人の計4人がプールサイドでテープカットし、完成を喜びました。宮坂町長は「安心して水泳競技に親しみ、体力を養ってください」と語り、児童たちは「早く泳ぎたい」と心待ちにしていました。

鶴川漁協厚真支所ホッキ部会(西館純之部会長)は7月7日、水揚げされたホッキ貝約65kgを学校給食センターにプレゼントしました。

子どもたちに旬の味覚を楽しんでもらおうと、毎年、寄贈しています。部会長に代わって、漁師の伊勢勝さん(70歳)と澤口研太郎さん(32歳)が、遠藤教育長にホッキ貝を贈りました。遠藤教育長は「厚真の食材を子どもたちに味わってもらい、食育に役立たせていただきます」と感謝しました。

ホッキ貝は、自然繁殖した10年前後のもので、大人のこぶしほどの大きさ。7月15日に学校給食センターやこども園でホッキカレーに調理され、幼児や小・中・高校の計約600人に振る舞われました。

鶴川漁協厚真支所ホッキ部会 給食用のホッキ貝を寄贈



遠藤教育長にホッキ貝を贈る澤口さん



町土地改良区が全国表彰 地域コミュニティの再生や強化が評価される

町土地改良区(山田英雄理事長、愛称・水土里ネットあつま)が、全国土地改良事業団体連合会(二階俊博会長)の大賞を受賞しました。「田んぼの生き物観察会」など、学校や地域と連携して地域コミュニティの再生や強化に貢献したことが評価されました。

大賞は、同連合会の最高賞で、平成15年度から表彰しています。令和元年度は、都道府県や中央審査を経て、町と青森県の2団体が選ばれました。道内での大賞受賞は、平成28年度の栗山町以来3年ぶりです。3月に東京都内で表彰式を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で式典は中止され、6月末に町土地改良区に賞状が贈られました。

山田理事長は「農業用水路での生き物の観察や田植えなど、子どもたちの喜ぶ顔が地域の励みになっています。地域住民との相互理解を深めながら、今後も活動に取り組んでいきます」と受賞を喜びました。



賞状を持つ山田理事長(上) 昨年の田んぼの生き物観察会(下)

日本たばこ産業が町に寄付

日本たばこ産業株式会社道央南支店(苫小牧市)の朝倉弘之支店長が6月24日、役場を訪れ、町に50万円を寄付しました。

地域支援の一環で、目録を贈呈しました。朝倉支店長は「少しでも貢献できればと思いました」と語り、西野副町長は「生活支援のために使わせていただきます」とお礼を述べました。



西野副町長に目録を渡す朝倉支店長(左)



苫小牧保護司会の木越武治副会長、菅原正良会長、宮坂町長、大橋正治・厚真分区長(左から)

社会を明るくする運動 苫小牧地区保護司会がメッセージ伝達

苫小牧地区保護司会の菅原正良会長らが7月2日、役場を訪れ、宮坂町長に内閣総理大臣名の「社会を明るくする運動」のメッセージを託しました。

運動は、犯罪や非行防止、過ちを犯した人の更生について理解を深め、安全で安心な地域社会を作るのが目的です。菅原会長は「苫小牧地区保護司会は、今年で70年になります。今後も努力します」と語り、宮坂町長は「デリケートな仕事をこなしていただき、感謝します」と話しました。町内の保護司は、大橋正治分区長と中村昇洋さんの2人が活動しています。

ガーデニング講習会



講習会終了後、自慢の寄せ花と一緒に記念撮影する参加者たち

町コミュニティ運動推進協議会(山下昌秀会長)が主催するガーデニング講習会が7月2日、総合福祉センターで開かれ、参加者23人は一年草や多年草などの苗を組み合わせて、鉢を使った寄せ花づくりを楽しみました。

講習会は、当初、表町公園で行う予定でしたが、雨天のため総合福祉センターに変更。講師の有限会社梅原商店の梅原智哉さん(40歳)が「背の高い苗を真ん中に置くと、見栄えがよくなります」など、寄せ植えのコツを伝えました。参加者は、梅原さんからアドバイスを受けながら、約20種類の苗の中から5種類を選んで鉢に植え替えました。山下会長は「家の周りをきれいな花で飾ってください」と呼びかけました。

ケイセイマサキ建設が消毒液を寄贈

公共土木や建設事業を手掛けるケイセイマサキ建設株式会社(新冠町、正木省司社長)は7月3日、町にアルコール消毒液を寄贈しました。

新型コロナウイルス感染症の防止に役立ててもらおうと寄付したもので、正木健太副社長が1斗缶5缶(75kg)を届け、町総務課の木戸参事に手渡しました。正木副社長は「町内で災害復旧工事を行っている縁で、寄付させていただきました。感染予防に役立ててください」と話しました。

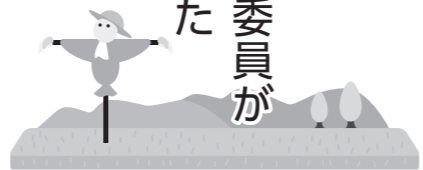


アルコール消毒液を贈るケイセイマサキ建設の正木副社長(右)

任期満了に伴い、農業委員会の農業委員18人が決まり、宮坂町長から7月20日、総合福祉センターで任命を受けました。任期は、令和5年7月19日までの3年間です。

農業委員は、6月11日の第2回厚真町議会定例会で、議会の選任同意を経て任命されました。農業委員会は、市町村に設置が義務付けられている行政委員会、農地法などのうち関係法令に基づく許認可事務や農地などの最適化の推進を重点に活動しています。

新しい農業委員が決まりました



会長 小谷 和宏
 職務代理 高橋 宥悦
 農地部会長 藤本 裕一
 農政部会長 中島 広幸
 特別委員長 長谷川 和司

・すべて敬称略
 ・委員の紹介は、議席順です。

キリンビール有志がハスカップ収穫



あつまるくんのタオルを広げて記念撮影する参加者たち

キリンビール北海道統括本部(札幌市)の有志ら18人が7月12日、朝日地区にある土居農園でハスカップを収穫しました。

東京都内にある同社の子会社のレストランで、今秋発売するクラフトビールの原料となります。ハスカップを使ったクラフトビールは、昨年に続いて2年連続で、今年も1,000ℓを仕込む予定だそうです。

土居元さん(43歳)から収穫のコツなどを聞いた参加者たちは、指先を紫色に染めながら完熟した実を摘みました。宮坂町長は「復興に向けて歩みを進めています。ハスカップを通じて、東京の皆さんに元気を届けたい」と話しました。

市街地で「セーフティーコールあつま」交通事故死ゼロを更新中

夏の全道一斉交通安全運動初日の7月13日、町交通安全推進委員会の「セーフティーコールあつま」が、市街地の交差点で行われました。

町内では、交通事故死ゼロを更新中で、この日は870日目。小雨が降るあいにくの天気の中、参加者はのぼりを立てて交差点の沿道に並び、道行くドライバーにスピードダウンや飲酒運転の根絶などを呼びかけました



交差点付近で交通安全を呼びかける参加者たち

鈴木知事に厚真産ハスカップをPR



「厚真のハスカップ 日本一！」と声をそろえて人差し指を示す原副会長、宮坂町長、鈴木知事、山口会長(左から)

旬の味覚を広くPRしようと、宮坂町長と厚真産ハスカップブランド化推進協議会(山口善紀会長)は7月13日、鈴木直道知事を表敬訪問し、摘みたての果実とハスカップドリンクを届けました。

山口会長は「新型コロナウイルス感染症の影響で、ハスカップフェアは中止しましたが、感染防止策を講じた9戸の農園に大勢の方に来ていただきました。被災した畑の復旧のめどもつきました」と説明。鈴木知事は「日本一のハスカップを通じて、道も厚真の元気な情報を発信し、力強く歩を進める皆さんを強力にサポートします」と改めて支援を約束しました。